

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(1)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
6	サロベツ原野	北海道	湿原植生	サロベツ原野にはホロムイイチゴ - イホミスゴケ群落、ヌマガヤ - イホミスゴケ群落、ホロムイソウ - ミカツキグサ群落、ナガバノモウセンゴケ - ウツクシミズゴケ群落、ヌマガヤ - ホロムイスケ群落、ヨシ - イワノガリヤス群落、ハンノキ林。湖沼にはオヒルムシロ、ジュンサイ、ヒシなど多種の水生植物群落が分布。	利尻礼文サロベツ国立公園 国指定サロベツ鳥獣保護区
			水草	稚咲内砂丘に成立した湖沼群。コウホネ類などが多産。	
			ガン・カモ類	ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)の渡来地。	
			爬虫両生類	コモチカナヘビの生息地。	
			淡水魚類	サロベツ川などサロベツ原野のイトウの生息する河川、湖沼。	
			昆虫類	チャバネエンマコガネ、カラフトマルガタゲンゴロウ、イイジマルリボシヤンマの生息地。	
底生動物	ヤマトシジミなどの低塩分性ベントスの生息地。				
11	サロマ湖	北海道	湿原植生	塩沼地植生(アッケシソウ、ウミドリ、オオシバナ、ウシオツメクサ、ハマシオンの群落)。海岸草原群落はハマナス、エゾセンテイカ、エゾスカシユリなどの群落とエゾノコリンゴ群落。	網走国定公園
			海草	日本最大の潟湖性アマモ場。広大なアマモ群落。	
			ガン・カモ類	オオハクチョウ、コハクチョウ。11月下旬にオオハクチョウ約800羽、コハクチョウ約200羽。	
			底生動物	湖底にはカキ礁遺骸が存在。ホタテガイ、ホッケイエビ、カキなどの重要な生息地。	
12	能取湖	北海道	海草	スゲアマモの広大な藻場で、分布は湖内の西岸。スゲアマモの単純群落では国内最大。その他、アマモ、コアマモの群落がある。	網走国定公園
			ガン・カモ類	オオハクチョウ、ヒシクイ(亜種ヒシクイ)の渡来地。	
			底生動物	ホタテガイ、ホッケイエビの重要な生息地。	
13	網走湖	北海道	湿原植生	女満別側には国指定天然記念物の大規模なハンノキ - ミズバショウ群落がある。ヤチダモ、ハルニレ、エゾノウミズザクラ、エゾイラクサ、クサソテツ、オニシモツケ、オオバナノエンレイソウなどが生育。	網走国定公園 国指定瀧沸湖鳥獣保護区
			その他鳥類	タンチョウの生息地。	
			底生動物	ヤマトシジミなどの重要な生息地。網走川下流にはエゾホトケ(淡水魚類)も生息する。	

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(2)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
14	濤沸湖	北海道	湿原植生 海草 ガン・カモ類 その他鳥類 底生動物	塩沼地にオオシバナ、ホソバナシバナ、エソツルキンバイの群落、淡水湿地にはヨシ群落、ヤラメスゲ群落、ヌマガヤ - ヤチヤナギ群落、ハンノキ林、コアマモの生育地。 ヒシクイ(亜種ヒシクイ)、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ミコアイサ、ウミアイサの渡来地。 タンチョウの生息地。 ヤマトシジミ、カキなどの重要な生息地。濤沸湖にはアサリも生息。	網走国定公園 国指定濤沸湖鳥獣保護区
15	知床半島サケ・カラフトマス遡上河川	北海道	淡水魚類	種苗放流のない唯一のサケ、カラフトマス生息地。自然遡上がある。	知床国立公園
18	野付半島・野付湾・尾岱沼	北海道	湿原植生 海草 シギ・チドリ類 ガン・カモ類 その他鳥類 淡水魚類 底生動物	塩沼地植生は、オオシバナ、ウミドリ、ウシオツメクサ、エソツルキンバイの群落、淡水湿地は沼沢湿原。フトイ群落、サジオモダカ群落、スギナモ群落、オオヌマハリイ - ヒメハリイ群落、ガマ群落、ミツガシワ群落、ムジナスゲ群落、ワタスゲ群落にはムラサキミズゴケ、イソツツジ、チシマガリヤス、ヤチカワズスゲなどが生育。 日本でもっとも広大で非常によく発達したアマモ群落。ホッカイエビの主漁場。分布は、ほぼ湾内の全面。アマモとオオアマモの群生地。ホッカイエビの生息場所。 春秋の渡り期の種数・個体数が比較的多く、キョウジョシギ、キアシシギでは最小推定個体数の1%以上、ダイゼンでは0.25%以上が記録されている。RDB種のアカアシシギ、オオジシギが記録されている。 オオハクチョウ、コクガン、スズガモ、ホオジロガモ、ヒドリガモの渡来地。 タンチョウの生息地。営巣数の約7%が存在。 伊奈仁川、標津川、当幌川、春別川、床丹川、西別川、嵐蓮川、琵琶瀬川、別寒辺牛川、釧路川、阿寒川など根釧原野のイトウ、ヤチウグイの生息する大小河川と周辺湖沼群。 ホッカイエビ、アサリなどの重要生息地。	国指定鳥獣保護区(計画)

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(3)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
23	風蓮湖	北海道	湿原植生	風蓮湖に注ぐ風蓮川下流域に広がる湿原で規模が大きく、かつ人為の影響が比較的少ない湿原。ヨシ - イワノガリヤス群落、ヤチヤナギ - ムジナスゲ群落、ヤラメスゲ群落、ミツガシワ群落、ハンノキ林を主体とする低層湿原であるが、ムラサキミズゴケ、ワラミズゴケ、クシノハミズゴケ、ヒメミズゴケ、オオミズゴケなど多種のミズゴケハンモックの群落が生息する。湿原中心部にはイソツツジ - チャミズゴケ群落が生息し、チャミズゴケハンモックが著しく発達している。チシマガリヤス、コケモモ、ガンコウラン、イソツツジなどを産す。	国指定風蓮湖鳥獣保護区 (現在、特別保護地区は、春 国袋のみ)
			湿原植生	オオシバナ群落、ヒメウシオスゲ群落などの塩沼地植生が中心で、ウミドリ、ウシオツメクサ、エゾツルキンバイ、チシマドジョウツナギ、ドロイが生息。淡水湿地にはフトイ群落、ガマ群落、ヨシ - チシマガリヤス群落、ヨシ - ヤラメスゲ群落、ハンノキ - ヤチダモ林、砂丘生アカエゾマツ林(林床はミズバショウが優占)。	
			海草、海藻	広大な干潟とアマモ場(アマモ・コアマモ)。分布はほぼ湖内全面。アマモ・コアマモの群生地、ニシン、サケなどの重要な産卵・幼魚期成育場所。湖内の走古丹から湖口に至る澁筋内に湖沼性コンブ1種がかなり多量に生息している。	
			シギ・チドリ類	春秋の渡り期の種数・個体数が比較的多く、ミヤコドリ、メダイチドリ、キアシシギ、では最小推定個体数の1%以上、キョウジョシギ、ツルシギ、アオアシシギ、ハマシギでは0.25%以上が記録されている。RDB種のヘラシギ、セイタカシギ、アカアシシギ、ホウロクシギ、オオジシギが記録されている。	
			ガン・カモ類	オオハクチョウ、ヒシクイ(亜種ヒシクイ)、コクガン、ヒドリガモ、オナガガモ、スズガモ、ホオジロガモの渡来地。	
			その他鳥類	タンチョウの生息地。営巣数の25%以上が存在。	
			淡水魚類	伊奈仁川、標津川、当幌川、春別川、床丹川、西別川、風蓮川、琵琶瀬川、別寒辺牛川、釧路川、阿寒川など根釧原野のイトウ、ヤチウグイの生息する大小河川と周辺湖沼群。	
底生動物	アサリなどの生息地。				

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(4)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
32	阿寒湖	北海道	淡水藻類 その他鳥類 淡水魚類 淡水魚類 淡水貝類	絶滅危惧 類のヒメフラスコモ、カタシャジクモ、シャジクモおよびマリモが生育。 タンチョウの生息地。 アジアにおけるヒメマス天然分布の南限地。 伊奈仁川、標津川、当幌川、春別川、床丹川、西別川、風蓮川、琵琶瀬川、別寒辺牛川、釧路川、阿寒川など根釧原野のイトウ、ヤチウグイの生息する大小河川と周辺湖沼群。 カワシンジュガイ(絶滅危惧 類)、マメシジミ類。種の多様性が高い(北方系貝類要素)。	阿寒国立公園
39	沼の原・沼の平	北海道	湿原植生 昆虫類	沼ノ原湿原にはチシマミクリ群落、フトヒルムシロ群落、クロヌマハリイ群落、ミツガシワ群落、エゾホソイ群落、ホロムイソウ - ミカツキグサ群落、ナガバノモウセンゴケ - ウツクシミズゴケ群落、ナガバノモウセンゴケ - フサバミズゴケ群落、ミヤマミズゴケ群落、イボミズゴケ群落、湿原生アカエゾマツ林。忠別沼周辺高山湿原にはミヤマヤチヤナギ - チャミズゴケの群落、ムセンズゲやミヤマホソコウガイゼキショウの群落。高根ヶ原周辺高山湿原にはエゾワタスゲの生育するミズゴケ群落がある。五色ヶ原、ヒサゴ沼周辺には、広大な高山雪田群落が見られる。 タカネマメゲンゴロウ、クモマエゾトンボ、ダイセツマメゲンゴロウ、ダイセツマルクビゴミムシの生息地。	大雪山国立公園
41	雨竜沼湿原	北海道	湿原植生 昆虫類	恵岱岳、群馬岳、南暑寒岳東斜面の小湿原を含む。雨竜沼湿原は道指定天然記念物。ヌマガヤ - イボミズゴケ群落、ヌマガヤ - キダチミズゴケ群落、ヌマガヤ - ホロムイソウ群落、ホロムイソウ - ミカツキグサ群落、ウツクシミズゴケ群落。池塘や川の水生植物群落が多様で、ホソバウキミクリ群落、ウキミクリ群落、カラフトカサスゲ群落、ミツガシワ群落、カキツバタ群落、ミズドクサ群落、オオカサスゲ群落、ヤラメスゲ群落などがある。河辺植生はイワノガリヤス - コバイケイソウ群落。 チビコガシラミズムシ、ベニヒカゲ、ショカンベツチビゴミムシの生息地。	暑寒別天売焼尻国立公園
58	大沼	北海道	淡水貝類	エゾドブシジミ、ヨコハマシジラガイ。種の多様性が高い(北方系と本州系貝類要素が混在する)。	大沼国立公園

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(5)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
65	仏沼	青森県	その他鳥類	オオセッカの生息地。	国指定鳥獣保護区(計画)
69	十三湖・岩木川	青森県	湿原植生	エゾシロネ - ヨシ群落、シオクグ群落など。	津軽国定公園
			その他鳥類	オオセッカの生息地。	
			昆虫類	岩木川最下流部は河畔が広大なヨシを主体とする湿原となっている。十三湖周辺に甲虫類、ウチワヤンマ、アオヤンマなど多数のトンボ類、オオシマゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、ゲンゴロウモドキ、エゾガムシ、ホソガムシ他の水生甲虫類をはじめとした水生昆虫が豊富で、周辺にはキタアカシジミが生息する。	
底生動物	ヤマトンジミなどの汽水性ベントスの生息地。				
70	屏風山湿原池沼群	青森県	湿原植生	ツルコケモモ - ミズゴケ群落、ニッコウキスゲ - ノハナショウブ群落など。	津軽国定公園
			水草	貴重な水生植物ならびに湿地植生が発達。	
			昆虫類	カラカネイトトンボ、オオセスジイトトンボ、アオヤンマ、マダラヤンマ、オオトラフトンボ、ハッチョウトンボ、オオキトンボなど多数のトンボ類。オオヒメゲンゴロウ、オオシマゲンゴロウ、ゲンゴロウモドキなどの水生甲虫類が多く生息している。	
72	八甲田山湿原群	青森県	湿原植生	ミヤマイヌノハナヒゲ - ワタミズゴケ群落、ショウジョウスゲ群落、ヌマガヤ群落、ミヤマホタルイ群落、エゾノヒツジグサ群落など。	十和田八幡平国立公園
			淡水藻類	絶滅危惧 類のヒメフラスコモ、カタシャジクモが生育。	
			昆虫類	蔦温泉の周囲には少し離れた赤沼を含め大小の沼が点在し、蔦七沼と呼ばれる。周辺の森林からも興味深い昆虫が多数確認され、青森県にあっては昆虫の宝庫として知られている。キタヒメアメンボ、キイロマツモムシの生息地。八甲田山系は南北2群の火山よりなり、その中間に睡蓮沼を含む湿原地帯がある。カオジロトンボ、イシカリミドリカワゲラ、キイロマツモムシ、ヘリグロミズカメムシ、ババアメンボ、チャイロシマチビゲンゴロウ、サワダマメゲンゴロウ、メススジゲンゴロウ、ゲンゴロウ、ミヤマミズスマシ、ゴマフトビケラ、ヤチアミトビケラなどの水生昆虫が生息する。	

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(6)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
75	八幡平周辺湿原群	岩手県・ 秋田県	湿原植生	ショウジョウスゲ群落、ヌマガヤ - イボミズゴケ群落、ミヤマイヌノハナヒゲ - ワタミズゴケ群落、シモフリゴケ群落、ヤチスゲ群落、エゾホソイ群落、ミヤマホタルイ群落。	十和田八幡平国立公園
			水草	夜沼は日本唯一のハリナズナの群生地。他の湖沼にも貧栄養水域性の水生植物が生育する可能性があり、要注目。	
			昆虫類	チシマミズムシ、モイワサナエ、ルリボシヤンマ、オオルリボシヤンマ、タカネトンボ、カラカネトンボ、エゾトンボ、ハッチョウトンボ、ムツアカネ、カオジロトンボなどの生息地。八幡沼、ガマ沼、蓬莱沼、黒谷地、御在所湿原などの調査により、高標高の池沼にはチシマミズムシ、北方系の <i>Glaenocoris</i> 属の特異なミズムシ、アサヒナコミズムシ、キイロマツモムシが多数みられる。	
88	蕪栗沼	宮城県	湿原植生	ヨシ群落、マコモ群落、タチヤナギ群落など、低湿地を代表する植生が残存。	国指定鳥獣保護区(計画)
			ガン・カモ類	ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)、マガン、シジウカラガンの渡来地。	
			淡水魚類	ゼニタナゴ、タナゴの生息地。	
			淡水貝類	インガイ類の生息地。	
109	最上川河口	山形県	ガン・カモ類	ハクチョウ類の渡来地。	国指定鳥獣保護区(計画)
120	裏磐梯湖沼群	福島県	湿原植生	オヒルムシロ、ジュンサイなどの生育する多数の湖沼や低層湿原が散在する。	磐梯朝日国立公園
			淡水魚類	シナイモツゴ、アカヒレタビラの生息地。	
			昆虫類	アマゴイルリトンボ、アオヤンマ、ルリボシヤンマ、エゾトンボ、ハッチョウトンボの生息地。	
121	猪苗代湖	福島県	淡水貝類	絶滅危惧 類のカワシンジュガイ(流入河川)、ヨコハマシジラガイ(猪苗代湖)。種の多様性が高い。	磐梯朝日国立公園

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(7)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
127	尾瀬ヶ原・尾瀬沼	福島県・ 群馬県・ 新潟県	湿原植生	ヌマガヤ - イボミズゴケ群落、ヤチカワズスゲ - キダチミズゴケ群落、リュウキンカ - ミズバショウ群落、ホソバタマミクリ - オゼコウホネ群落、スギナモ群落など。	日光国立公園
			淡水藻類	絶滅危惧 類のカタシャジクモが生育。	
			昆虫類	トンボ類・甲虫類の多様性が高い。カラカネイトトンボ、オゼイトトンボ、ルリイトトンボ、モイワサナエ、ルリボシヤンマ、オオトラフトンボ、エゾトンボ、ホソミモリトンボ、カラカネトンボ、ハッチョウトンボ、ムツアカネ、カオジロトンボなどの生息地。	
			淡水貝類	マメシジミ類の多産地。	
131	利根川下流部	茨城県・ 千葉県	シギ・チドリ類	波崎の砂浜、神栖・矢田部西前宿などの河川敷。チュウシャクシギ、ツルシギ、ミユビシギ、キョウジョシギ、ミヤコドリでは最小の推定個体数の1%以上、メダイチドリ、ハマシギ、キアシシギ、ムナグロでは0.25%以上が記録されている。	国指定鳥獣保護区(計画) 筑波水郷国定公園
			その他鳥類	オオセッカの生息地。	
138	大田原市の湧水湿地	栃木県	淡水魚類	ミヤコタナゴ、陸封性イトヨの生息地。	羽田ミヤコタナゴ生息地保護区
143	湯の湖・戦場ヶ原・小田代ヶ原湿原	栃木県	湿原植生	ヌマガヤ - イボミズゴケ群落、オオアゼスゲ群落。	日光国立公園
			淡水藻類	絶滅危惧 類のオオフラスコモ、カタシャジクモが生育。	
159	三番瀬	千葉県	ガン・カモ類	スズガモの渡来地。	国指定鳥獣保護区(計画)
			シギ・チドリ類	春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数が多く、ハマシギでは最小推定個体数の1%以上、ミヤコドリ、ダイゼン、メダイチドリ、キアシシギ、キョウジョシギ、ミユビシギでは0.25%以上が記録されている。RDB種のホウロクシギが記録されている。	
			底生動物	東京湾奥部の最大の干潟、アサリなどの二枚貝類ならびにエドガワミズゴマツボの生息が豊富で東京湾の水の浄化機能も高い。	
171	父島・母島の河川	東京都	淡水魚類	オガサワラヨシノボリ、チチブモドキの生息地。	小笠原国立公園
			淡水貝類	オガサワラカワニナ(準絶滅危惧)の生息地。	

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(8)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
172	小笠原諸島周辺	東京都	サンゴ ウミガメ 底生動物	エプロン礁。希少種を含み、自然度が高い。 小笠原諸島は南西諸島に並ぶアオウミガメの繁殖地である。その中でも最も多く産卵が行われるのが初寝の砂浜である。その砂浜に至る海域として重要である。南島はアーチ状の岩穴をくぐって砂浜に至る産卵場として世界でも唯一の場所である。アオウミガメの産卵生態、行動を考える上でも貴重と思われる。 オガサワラスガイなど固有種の生息地。	小笠原国立公園
178	苗場山周辺湿原	新潟県・長野県	湿原植生	ヌマガヤ群落、イワイチョウ - ショウジョウスゲ群落、ヤチスゲ群落、ミヤマホタルイ群落など。	上信越国立公園
189	福島潟	新潟県	湿原植生 ガン・カモ類 淡水魚類	ヨシ群落、マコモ群落、オニバス自生地北限。 コハクチョウ、ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)の渡来地。 ウケチウグイの生息地。	国指定福島潟鳥獣保護区
189	瓢湖	新潟県	ガン・カモ類	コハクチョウ、ヒシクイ(亜種オオヒシクイ)の渡来地。	国指定鳥獣保護区(計画)
203	立山周辺湿原群	富山県	湿原植生	ヤチカワズスゲ - キダチミズゴケ群落、ダケスゲ群落、ミヤマホタルイ群落、ヌマガヤ群落など。	中部山岳国立公園 国指定北アルプス鳥獣保護区
222	三方五湖	福井県	淡水魚類	ハス、タモロコ、ナガブナの生息地。	若狭湾国定公園
264	丹後・但馬地方低山地湧水域のアベサンショウウオ生息地	京都府・兵庫県	爬虫両生類	アベサンショウウオ(日本固有種)の生息地。	大岡アベサンショウウオ生息地保護区
292	串本錆浦、潮岬西岸	和歌山県	サンゴ	種の多様性が高く、かつ被度がすこぶる高く、多くのサンゴ礁性動物に生息環境を提供している。オオナガレハナサンゴの密集個体群は世界で当域でのみ知られる。なお、サンゴ礁には多様性の高い底生動物が生息し、その中には、当域が分布の北限となる種が多く含まれる。	吉野熊野国立公園

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(9)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
300	中海	島根県・ 鳥取県	湿原植生	オオクグ群落。	国指定中海鳥獣保護区
			海草	コアマモの生育地。日本海側で唯一のまとまったアマモ場。	
			水草	カワツルモの汽水域の植生が良好に残存。また、大橋川河口左岸の水田には、ミズアオイ、ヒメシロアサザなどの絶滅危惧種がごく限られた範囲で生育。ミズワラビも生育。	
			シギ・チドリ類	春秋の渡期の種数・個体数が比較的多く、RDB種のコシャクシギ、セイダカシギ、アカアシシギ、ホウロクシギ、ツバメチドリが記録されている。	
			ガン・カモ類	コハクチョウ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモの渡来地。	
			昆虫類	ゴバネアオイトトンボ、オグマサナエ、タベサナエ、アオヤンマ、ルリボシヤンマ、マルタンヤンマ、ハッチョウトンボ、ヒメアカネなどの生息地。	
			底生動物	アサリの生息地。	
301	宍道湖	島根県	湿原植生	ヨシ群落、セイコノヨシ群落。	国指定鳥獣保護区(計画)
			水草	ガガブタ、ミスナラ、オグラノフサモ、スプタ、シャジクモの仲間などの絶滅危惧種をはじめ、多様な水草が生育。	
			淡水藻類	絶滅危惧 類のインドオオイシソウ(紅藻)が多数生育。	
			ガン・カモ類	マガン、キンクロハジロ、スズガモの渡来地。	
			淡水魚類	シンジコハセの生息地。	
			昆虫類	1986年にナゴヤサナエが多産する事が発見された。河川で産卵し、流下卵が1/10塩分濃度の汽水域である宍道湖で羽化する。塩分濃度のわずかな変化がナゴヤサナエの生息に大きく影響する可能性がある所以要注目。	
			底生動物	ヤマトシジミの生息地。	
304	隠岐島周辺沿岸	島根県	海藻	希少種が多い。日本海で海藻の種数が最多。クロキツタ(国の天然記念物)の生育地。	大山隠岐国立公園
325	秋芳洞	山口県	淡水貝類	地下水棲貝類の種の多様性が高い。ホラアナミジンナ類、ミジンツボ類の生息地。	秋吉台国定公園

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(10)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
363	和白干潟	福岡県	シギ・チドリ類	春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数が多く、ミヤコドリ、メダイチドリ、チュウシヤクシギ、キアシシギ、ミコビシギ、トウネン、ハマシギでは最小推定個体数の0.25%以上が記録されている。RDB種のカラフトアオアシシギ、ヘラシギ、コシヤクシギ、ホウロクシギ、アカアシシギ、オオジシギが記録されている。	国指定和白干潟鳥獣保護区
			ガン・カモ類	スズガモの渡来地。	
			その他鳥類	クロツラヘラサギの渡来地。	
			底生動物	豊富な鳥類と塩生植物。ベントス相も豊富で、ウミニナ、オオノガイ、ツバサゴカイといった希少種も多い。	
365	有明海(大授掬)	佐賀県	湿原植生	シチメンソウ(絶滅危惧類)の我が国最大の生育地。	国指定鳥獣保護区(計画)
			シギ・チドリ類	春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数も多く、ダイゼン、ハマシギ、ダイシヤクシギでは最小推定個体数の1%以上、シロチドリ、メダイチドリ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギでは0.25%以上が記録されている。RDB種のカラフトアオアシシギ、コシヤクシギ、アカアシシギ、ホウロクシギが記録されている。	
			ガン・カモ類	ツクシガモの渡来地。	
			その他鳥類	ズグロカモメの渡来地。	
402	九重火山群湿原	大分県	湿原植生	火山山頂帯や山麓湧水地に形成された湿原。(西千里浜)コケモモ - ヒメミズゴケ群落、ニッコウコウガイゼキショウ群落、クジュウイヌノヒゲ群落。コケモモ、ニッコウコウガイゼキショウ、クジュウイヌノヒゲ、エゾシロネ、ヒメミズゴケなど。(坊がツル)ヌマガヤ - ヒメミズゴケ群落、ヌマガヤ - ヌマクロボスゲ群落、ヤチカワズスゲ群落、ツクシイヌイ群落。ヌマガヤ、ヌマクロボスゲ、ヤチカワズスゲ、ヤマアゼスゲ、タニガワスゲ、ツクシイヌイ、リュウキンカ、ヒメミズゴケ、オオミズゴケなど。(タデ原)ヨシ - アカバナ群落、ヌマガヤ-ヒメミズゴケ群落、ノリウツギ - ヒメミズゴケ群落。ヨシ、ヌマガヤ、ノリウツギ、ヤマアゼスゲ、ヤチカワズスゲ、エゾツリスゲ、キスゲ、リュウキンカ、クサレダマ、アカバナ、シモツケソウ、ヒメミズゴケ、オオミズゴケなど。	阿蘇くじゅう国立公園
422	出水干拓地	鹿児島県	その他鳥類	ナベヅル・マナヅルの渡来地。	国指定出水・高尾野鳥獣保護区
424	蘭牟田池	鹿児島県	湿原植生 昆虫類	ジャヤナギ群落など。ジュンサイ、コタヌキモ、ハデフラスコモなど。 ベッコウトンボの生息地。	蘭牟田池ベッコウトンボ生息地保護区
434	屋久島西部海岸	鹿児島県	ウミガメ	北太平洋で最もアカウミガメが高密度で産卵する砂浜およびそこに至る海域。	霧島屋久国立公園

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(11)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
440	住用湾流入河川および河口部	鹿児島県	マングローブ林	メヒルギ、オヒルギの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。	奄美群島国立公園
			マングローブ林	メヒルギの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
			マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、サキシマスオウノキ、シマシラキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
			淡水魚類	キバラヨシノボリ、リュウキュウアユの生息地。	
			甲殻類	住用村の住用川と役勝川の河口には、マングローブが大規模に発達している。両河川にはRDB記載の絶滅危惧種リュウキュウアユ(淡水魚類)が生息し、マングローブ周辺が冬場の稚魚の成育場所になっている。また、そこは川と海とを行き来して生活する甲殻類や魚類の稚仔魚や幼生の成育場所になっている。また両流入河川には、RDB記載種のリュウキュウサワガニ・サカモトサワガニ・アマミナミサワガニなどが生息している。	
底生動物	広大なマングローブ林を擁し、林内には希少巻貝類を多産する。				
454	屋我地	沖縄県	その他鳥類	ベニアジサシ、エリグロアジサシの繁殖地。シギ・チドリ類の渡来地。	沖縄海岸国立公園 国指定屋我地鳥獣保護区
			底生動物	希少巻貝の多様性が極めて高い。オオズングリアゲマキの国内唯一の生息地。ミニカドカドも世界唯一の生息地。	
470	慶良間諸島周辺沿岸	沖縄県	サンゴ	裾礁。種の多様性が高く、希少種を含む代表的な地域。幼生供給源として重要。自然度が高い。	沖縄海岸国立公園
			ウミガメ	屋嘉比島はアオウミガメ、アカウミガメの重要な産卵地であるとともに、アカマタ(ナミヘビ科の1種)がふ化幼体を食べに海岸に降りてくるとい、貴重な生態が見られる。また、周囲のサンゴ礁も発達している。	
471	久米島の溪流・湿地	沖縄県	昆虫類	クメジマボタルの生息地。	宇江城岳キクザトサワヘビ生息地保護区
			爬虫両生類	キクザトサワヘビ(日本固有種)、リュウキュウヤマガメ(日本固有種)、ヤマシナトカゲモドキ(種として日本固有)の生息地。	

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(12)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
487	名蔵アンパル	沖縄県	爬虫両生類	コガタナハナサキガエル(日本固有種)、オオハナサキガエル(日本固有種)、ヤエヤマハラブチガエル、ヤエヤマヒバァ(日本固有種)、セマルハコガメ(日本固有亜種)の生息地。	国指定名蔵アンパル鳥獣保護区
			昆虫類	ヒメイトトンボ、コナカハグロトンボ、ヤエヤマサナエ、ヒメホソサナエ、サキシマヤンマ、イシガキヤンマ、ヒナヤマトンボ、サキシマヤマトンボ、オオキイロトンボなどの生息地。	
			水草	ブネラ湿地に代表される河川流域の湿地と圃場整備前の水田はヒメシロアザ、トリゲモ類はじめ絶滅危惧種が生育。開発の進行で危機的状況のため要注目。	
			マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
			海草、海藻	8種の海草が混生藻場を形成。過去に海草類の生態分布、密度、現存量の季節変化、魚類群落、ベントス群落も調査され、多様性が高い。コエビ類では日本初記録の熱帯出現。熱帯性海草藻場(リュウキュウスガモ・リュウキュウベニアマモ・ベニアマモ・ボウバアマモ・ウミヒルモ・ウミジグサ・ホソバウミジグサ)。ウミヒルモ、ウミショウブの生育地。リュウキュウアマモ。カサリ群落。	
			シギ・チドリ類	春秋の渡り期の種数・個体数が比較的多い。RDB種のセイタカシギ、アカアシシギが記録されている。	
			甲殻類	アンパルはマングローブ樹種と規模と成因・鳥類・魚介類など独特で、重要な湿地である。特に、水生動物では、大型巻貝のキバウミニナや唯一の海産ヌマエビで希少種のマングローブヌマエビの分布北限になっている。流入河川には、RDB記載の6種(イシガキヌマエビ・コツノヌマエビ・ツブテナガエビ・ヤエヤマサワガニ・ミヤザキサワガニ・ヤエヤマヤマガニ)が生息しているので、流域全体が重要。	
底生動物	広大なマングローブ湿地を擁し、底生動物相が豊富。				
490	石西礁湖	沖縄県	サンゴ	準堡礁。種の多様性が高く、希少種を含む代表的な地域。幼生供給源として重要。自然度が高い。	西表国立公園

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(13)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
493	仲間川	沖縄県	マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。国天然記念物。	西表国立公園
			淡水魚類	ナガレフウライボラなど亜熱帯性淡水魚類の多様性が高い。特に浦内川ではテッポウウオ、ウラウチフエダイが生息。また、大見謝川、仲間川の上流にはツバサハゼが生息。	
			甲殻類	仲間川やその支流にはRDB記載の3希少種(コツノヌマエビ・ショキタテナガエビ・ヤエヤマサワガニ)が生息しているため、流域全体が重要。また、近年、仲間川支流から新種らしきカワリヌマエビの一種も発見されている。	
			底生動物	日本で最大級のマングローブ湿地を擁する。マングローブ湿地固有の底生動物の種の多様性大。	
498	浦内川	沖縄県	マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	西表国立公園
			淡水魚類	ナガレフウライボラなど亜熱帯性淡水魚類の多様性が高い。特に浦内川ではテッポウウオ、ウラウチフエダイが生息。また、大見謝川、仲間川の上流にはツバサハゼが生息。	
			甲殻類	浦内川の汽水域には周縁性魚類や甲殻類が多く、淡水域には希少種や危急種に該当する甲殻類やハゼ類が生息しているため、流域全体が重要。特に、マングローブ水路には南方系のテッポウウオやウラウチフエダイなど、河川上流部には河川陸封性のショキタテナガエビやコツノヌマエビおよびヤエヤマサワガニなど、それぞれ貴重種が生息している。	
			底生動物	マングローブ湿地固有の底生動物が豊富。ノコハオサガニが潮間帯で見られる日本唯一の場所。	

各湿地の日本の重要湿地500における記述について(14)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	選定理由	担保措置
499	西表島南西部海域および河口域	沖縄県	ウミガメ	八重山諸島でも最もアオウミガメが多く生息する海域で、湾奥の藻場を餌場としていることが解っている。自然度も高い。西表島の南岸、特に通称タカハマ、ワカレハマと呼ばれている砂浜は、西南諸島では最もアオウミガメが高密度で産卵する砂浜である。また、道路や集落等は全くなく極めて自然度の高い場所だと思われる。その沖合いには、礁原が広がっている。	西表国立公園
			サンゴ	種の多様性・自然度が高い。	
			海草	ウミシヨウブの純群落。	
			海草	リュウキュウスガモ、リュウキュウアマモ、ウミシヨウブの群落。	
			サンゴ	種の多様性が高く、希少種を含む。	
			マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
			マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
			マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
マングローブ林	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。				